女學雜誌

第二百八十二號
明治二十四年九月十二日發兌

新誌一覽の新欄加はりたり

新作小說 **苦患の鎖** 花圃

女子高等師範校長 細川潤二郎氏に質す

新著一評 **吉田松陰** 撫象

海外女報の細報大に增加す

下六番町六番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 282. September 12th. 1891.

第二百八十二號目次

EDITORIAL: [illegible]

CHILDREN'S COLUMNS: [illegible] (A True Story.)

MISCELLANEOUS: [illegible] in Germany.

THOUGHTS AND FANCIES: [illegible]

THE HOUSEHOLD: [illegible]

LITERARY: [illegible]

NOVEL: [illegible]

SCIENTIFIC: [illegible]

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

● [illegible]

● [illegible]小公子（若松しづ子）

● [illegible]

● [illegible]女[illegible]

● 家政 [illegible]

● 文[illegible] 家山[illegible]

● 小說 [illegible]（[illegible]女史）

● 理學 [illegible]

● 批評 [illegible] ● 新[illegible]一號（[illegible]

● 時事 [illegible]

通信女學[illegible]新募集廣告

[illegible]の今日、女學の進步一と方ならず、凡そ年頃の娘君[illegible]少なく、[illegible]一家の妻と[illegible]多し、[illegible]

[illegible]を募る。

[illegible]を募る。[illegible]

[illegible]日本[illegible]史、[illegible]理化學、生理學、動植物[illegible]

[illegible]半年分前金一圓八十錢、[illegible]一切前金に非れば發送せず。[illegible]一月廿五日に第一[illegible]を發兌し、[illegible]毎月廿五日に[illegible]十二月に至りて全科[illegible]

東京[illegible]町[illegible]六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八十二號 明治二十四年九月十二日發兌

社說

お轉婆排斥主義とは何ものぞ

政府が學校を設くる所以のものは、教育に裨補せんとを欲するが爲め乎、抑そも之を防害せんとを欲するが爲め乎。請ふ試みに女子教育の一例を擧げて此疑を質さん。

其の女子師範學校を設くるや、靴を穿ち、袴を高ふし、肩を聳やかし、聲を粗らかにし、「妾は獨立せんとを欲す」と揚言せる女生徒を出したると勘なしとせず。之が爲めに、女子教育の道、一時暫らく衰退中絶したり。

森氏、文部大臣となるに及びて、大ひに女學伸張に世話を焼き、盛んに高等女學校を保護したり。此に於てか、其校內に交際會起り、婚姻の世話行はれ、遂に有名なる醜聞怪評を釀生せしむるに至りたり。

醜聞の風評は、言ふ迄もなく無根より流れ出でたり。女子師範生に對する批評も、多分は、開化せざる舊習より激し來れり。然れども、兎に角、多少の誤解惡評の種子となるべきものを存したるや、明けし。

女子教育に對する政府從來の失策、既に斯の如し。然るに、新任女子高等師範學校長細川潤二郎氏は、其女子教育意見なるものを公人に話し聞かせて云はく、

女子高等師範學校と高等女學校とは共に女子教育の中心なり從て之に對する世の批難も亦少しとせず而して其の批難は多くは所謂お轉婆風を厭ふに在るが如し思ふに高等女學校は此弊害を矯正して淑女を養成する難きにあらずと雖も唯だ女子高等師範學校に至ては頗る或ひ無き能はず何となれば女子高等師範學校は一種特異の者なればなり家に在て伺父兄の監督を受べき女子にして一たび此校に入や校舍に在て校長以下舍監等の監督を受ると雖も父兄の周到懇切なる監督には及ばざるあり從つて其行儀作法の如きも幾分か亂れ勝なるは勢の止べからざるものあらん加ふるに學校卒業の後は又た五箇年の報酬年限あり後三年は自ら其場所を撰定するの自由ありと雖も最初の二箇年間は文部省の指定に從ふて女教師とならざる可らず既に女教師となるや五箇年間

は先づ結婚の望なきものと思はざるべからず而して一方には其の起居動作を監督するものもあらざれば時として節操を破るの虞なき能はず縦し斯る虞なしとするも日々多くの男教師等と交際するの結果自から優美の婦徳を缺くこともあるべく又た時としては婦人の口にすまじき言をも吐て男教師等を遣り込めたき情も生ぜん在れば女子師範學校卒業生がお轉婆の風あるは實に止むを得ざる所にして苟くも此の校の存在する限りは所謂お轉婆風の弊害は遂に匡正し難きものと諦めざる可からず若し之を諦め難しと云はゞ此の學校を廢するの外策なかるべし然れども此の學校を廢すると云ふことは重大の問題にして輕々決行すべきにあらず兎に角に余が今の椅子に上りたる以上は力めて此の風を矯正する覺悟なるを以て今後年を經過するの暁には女子教育に對する批難は減ずるを得べしと雖も女子師範學校に對する非難丈けは決して消滅せしむるを得ざるべしと云々と。

吾人は此に載する記事を最初讀賣新聞に於て讀みたり。然れど、餘りに愚なる談話なれば、大方は誤聞なるべしとて一笑し、更に顧みる所なかりき。然るに、其後中央新聞に掲載し、中外電報に轉載し、其他所々の新聞紙に之を掲ぐるを見たり。特に讀賣新聞の如きは、之が爲めに一大文章を社說欄內に綴り、堂々として此の愚なる意見を是非する所ろありき。夫れ、世人が之を新校長の意見として認識するの廣く且つ確かなると既に如此し、而して今に至る迄て一言正誤の之に加はるなきを見れば、細川校長が此記事を是認し、之に自語發言と相似たるの權力を附すると、今や亦た争そふ可らず。

所謂るお轉婆とは何ものゝ謂ぞ。凡そ從來閉居隱伏して只だ默かざるを以て優美なりと稱したらんほどのものは、文明の氣に觸れて活潑々々の態を新たに呈するとき、常に輕率、出過、生意氣など云へる惡評を蒙むらずと云ふとなし。若し政治向には一向口を出すまじき土百姓素町人の輩らが、民權國會など云へるとに口に出したる當初は、世人之を斥ぞけて生意氣なりと嘲けりたり。維新の初め、無經驗の書生連りに横議快恣して天下の政を批難せるとき、廟堂の有司は之を笑つて出過者となしぬ。其他陋習を打破して新思想を快活に主張したる人々の行爲は、未だ曾て輕率を以て目せられざりしとは非ず。然ども、其率先改進の鐘鼓、惰眠せる老人原を警醒し、革命

の新思想遂に勝ち事業正に成れるの曉に於ては、彼の生意氣の如く、輕率の如く、出過の如く見做されたる所ろの行爲は即はち燦たる改革者の美蹟にてありけるとを證明すべし。先覺女學生の行爲を目して「お轉婆」となすもの亦た此に類す。フイチンゲールが、一身を抛うつてクリミヤ原頭に數万の負傷卒を看護せんとして出立つや、心なきロンドンの都乙人は喧囂として之をお轉婆娘なりと評しける。ウイラードが一大女學校の校長たるとを辭し、衣食に困窮して敢て禁酒熱家の事業に力を盡すや、米國の浮れ男子は、之を調子外のお轉婆娘となしたるのみならず、倘ほ之を發狂者なりとして冷嘲したり。然れども、今日心あらんほどのものは、何人ありてか復たび斯の愚論を爲さん。眞誠快活の改進事業は屢ばお轉婆を以て目さるゝとあるものなり。

細川新校長は世の所謂る保守主義の人なりき。然れども幌馬車連とか云へる老壯士の仲間に列せられてより此の方、頗ぶる有爲改進の氣象に富み玉へるよしに風聞したれば、凡そ快活なる事業は、俗人の爲めに間ま惡評を蒙むるとを自から經驗せられたるなるべし。例せば、活潑なる幌馬車流の奔走を目して、輕率なりと云へる者多かりしが如きは是れ也。

左れば、細川校長が「お轉婆」の意義を解するや、頗ぶる自由に且つ寛弘ならずんばある可らず。然れども、其の自から稱して、余の女子教育主義は、お轉婆排斥主義なりと、公言せられたる由に鑑みる時は、君が謂ふ所ろのお轉婆は即はち眞誠のお轉婆として、即はち眞正の出過ぎ、生意氣の意義なるが如し。果して然らば何人と雖とも、此正銘の出過ぎ生意氣を排斥するとに同意せざる者はあらざる可し。

但だ奇怪とすべきは、女子高等師範學校の卒業生には、長久永劫此の眞正お轉婆の悪風を消滅せしむると能わず、稍やくにして能ふ所ろのものは只だ之を減ずるにありと云ふの辨論即はち是れ也。もし此の如くせば、細川新校長は、左の至當なる結果あるとを豫察し、文部省も亦た此結果の行わるべきとを餘儀なきとと覺悟する乎、云く。

女子高等師範學校あらん限りは、お轉婆の弊害は遂に矯正し難し。

左らば之を全廢せんかと云ふに、左程輕々にも扱ふと能わず、先づつとめて其弊害を減ずる迄なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故に女子高等師範學校に校長たる間は此の弊害を敗ずること能はず、たゞ骨を折ることによりて幾分に盡力すべし。女子高等師範學校あらん限りは、到底此弊害を無くすること能はず、たゞ骨を折ることによりて幾分か其弊を減ずる迄也。

此故に女子高等師範學校世に存するの結果は、女子をお轉婆にすることなり。而して校長の盡力によりて僅かに其弊害を少なくする迄也。

故て其卒業生は必らずやお轉婆なるべし、此お轉婆を五年間必らず使用して、更に多くのお轉婆を養成せしむるか（お轉婆を教師とするはお轉婆を養成するに同じ）もしくは此お轉婆教師に小學教育の大任を托せんとす。

嗚呼、細川新校長の女子教育意見斯の如し。然らば、政府文部省が細川潤二郎氏を女子高等師範學校長に任ずるの主旨も亦實に此の如くなるべし。依て大ひに疑がふ、政府は果して教育に裨補するものか、もしくは之を妨害するもの乎。

吾人は嚴然警告して、下院三百の議員諸君に白す、女子高等師範學校の世に存するの目的及び結果、並びに其教育法實に斯の如しと云へり、諸君大いに監督糾問して可なり。吾人は議院開會の時、復た代議君に告ぐる所あらんことに決心せり。

兒藍

小公子

若松しつ子

第九回（乙）

此後、フォントルロイは、ウィルキンスと極く仲が好くなり升て、大道や青葉の繁る小道を二人して、乗廻るのを、田舎の人が見ない日は一日もない位でした。田舎屋の子供たちは、凛然若殿が、立派な小馬に、居住ひ正しく乗て入つしやる處を見ようとして、外面へかけ出せば、其若殿が、帽子を脱で振りながら、「イヤー、お早うー」と一々挨拶をなさる處は、貴族らしくはなくとも、優いお心は充分現はれて居升た。時としては、馬を止て、子供たちと話を成い升たが、或日、ウィルキンスが、本邸へ歸つての話に、フォントルロイ殿が、跛で、疲れて居た兒を自分の馬に乗せて、家へ歸らせるとて、止めるのを聞かずに或る村内の學校の邊で、馬を下りたそうでした。ウィルキンス、が厩で、其話しをしてこふいひ升た、

「マア、なんちつたつて聞ねへのよ、「ワヤア、わたくしが下りませう」つていつたら、「大きな馬じや、あの兒が乗心が悪

るいだろう」だとさ、それから仕方がねへもんだから、其兒が乘ちまうとナ、若どの、兩方の手をポッケットへ入れて、帽子を後ろの方へ滑らかして、平氣で口笛を吹たり、其兒に話しかけたりして、傍を歩て行くじやないか、それから、とふ〳〵其兒の家まで來たア、スルト、お袋が何がおつぱじまつたかと思つて、出て來る、處で、どうだろう、若どの、帽子を脫いでナ、「おばさん、おばさんの子が足が痛いつて云つたから、連れて歸つて來升たよ、あの棒斗りじや、歩き惡いだろうから、僕のお祖父さまに賴んで、寄り掛りの附いた兩杖を拵へさせて上よう」だとよ、其調子ダモノ、其お袋だつて肝を消つちまわうじやあいか、尤もだあナ、ダガ、おらア、モウちつとで、吹出しつちまう處よ。

侯爵は此話しを聞かれて、ウィルキンスが氣遣つたとは違つて、少しも怒られず、却つて、大笑に笑はれて、フォントルロイを態々呼んで、自分の口から一分始終を話させて置いて又お笑ひなさい升た、これから現に數日たつてから、ドリンコート城のお馬車が、此跛の兒の住居のある小道に止り升た。スルト、フォントルロイが中から飛び出して、丈夫で輕そうな新しい兩杖を、鐵砲を擔ぐ樣に肩へ掛けて、戶の處まで行き、お袋に渡しあがら。

お祖父さまが宜しくつて仰つて、そして、これをあの兒に遣つて下さいつて、どふぞよくなれば好いつて、お祖父樣も僕も思つてるんですよ、

馬車へ歸つてから、侯爵に向つて、

アノ、お祖父さん、そうおつしやらなかつたけど、お忘れあさつたんだと思つて、宜しくつてそういひ升たよ、それで好いですか、エ? 好いでせう?

侯爵は又お笑ひなさつて、それは惡かつたとは仰られませんかつた。實際、此祖孫の間は、一日增に親密になり行き、フォントルロイが御前の慈善と美德とを信任するともいよ〳〵深くなり升た。フォントルロイはお祖父樣が最も氣立の優しい、慈悲の深い老紳士だといふとは露ほども疑ひませんかつた。中にも自分の望などは殆ど口へ出か、出ないに、モウ叶へられ升た、そうして上が上に與られた賜ものや備へられた、樂しみが餘り夥しいので、時としては自分の所有品ながら、眼移りがする位でした。凡よそ欲しひと思ふものは何でも調へられぬ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

物とてはなく、して見たいといふとにしてならぬことはない様でしたが、固より年の行かぬ子供を取るに、とふいふ法方では決して好結果の有ろう筈が有ません。たゞフォントルロイ丈は、不思議にも其の弊害を免かれ升た。尤も、此子供の特有な性質も、左様な取扱ひでは、或は變じて、多少、我儘な風になつたかも知れませんが、コート、ロッヂに仕へる、用心深く、優しい母、即はち、フォントルロイの最も仲の好い友が、始終傍から注意しましたので、終に其害を蒙りませんかつた。此の二人は逢ふ毎にいつも、山々の話しをいたし升て、母に暇を告て、別れる毎に、何かしら、心得になる話な分り易い、教訓の言葉を耳にとめて城へ歸らぬ事は有りませんかつた。一つ子供心に甚だ思ひ違ふたことが有ました。其不審を幾度か心の中に繰返し〳〵てゐた事は、誰も推量せぬ程でした。母さへもそれほどまでに、思ひ沈む程になつてゐるのを知りませんかつたから、況して、老侯なぞは久しい間、一向左様なとが有らうとも氣付かれませんかつた。然るに親切な正直な此子供には、母と祖父が一度も對面したとのないのが、不思議に思はれてたまりませんかつた。どうも嘘と話せたとはない様子……イヤ實際、一度の對面も無いに相違有ませんかつた。ドリンコート城の馬車が、コート、ロッヂへ行升た時も、老侯は決して馬車をお下りなさつたとがなく、又時たま、老侯が禮拝堂へ御出席の時も、フォントルロイ一人丈殘されて、母と戸口で、もの云ふか、さもなければ、家まで送ることをゆるされ升た。そうかと思へば、毎日お城から、コート、ロッヂへお遣ひが立つて、室から珍らしい菓物や花などを送られ升た。

併し、終に、セドリックが理想の頂天へ祖父様を推し擧げたことは、始めての日曜にエロル夫人が、附添もなく歩いて家へ歸られた道みちで有つたとでした。此日セドリックが母を訪ひに行ふとした時、戸口へ來てゐたのは、いつもの二頭引の大馬車ではなく、美麗な栗毛の馬の附た、奇麗な小馬車でした。侯爵は唐突に、

それは、貴様からお袋へ行く進物だ、田舍廻りは迚も歩いては出來まい、馬車は是非無ければなるまい、そして御者になつて居る奴が世話をするとにして置いた、ヨシカ、貴様からお袋へ遣る進物なのだぞ。

フォントルロイは、中々悦びを述べ盡すとも出來ませんか

つた。母の住居へ來るまでチットして居ることが六ケ敷位でしたが、母は折しも、庭で薔薇の花を摘んで居升た。見ると、突然、小馬車を下りて、母の側へとんで行き、

かあさん！、ほんとですよ、嘘だと思つちや厭、これはネかあさんのですよ、僕からかあさんに上るんだつて、かあさんのだから、どこへでも、乘つて歩るけるんですよ！

フオントルロイれ、餘りの嬉しさに、自分が何を云つてるか、夢中なほどでした。母は自分を讐敵の樣に思ふて居る人から來た物でも、受納めるとを拒んで、子供の折角の大悅びを打消すに忍びず、拠なくも、薔薇花を手に持つたまゝ、其馬車へ乘り升てあちらこちらと引廻されるに任せ升た。母と一處に乘つてゐるフオントルロイれ、お祖父樣の慈善の事と優しい事などの話しをして母に聞せ升たが、其話といふは余りあどけないので、時には少し可笑なつて思はず、笑ふ樣でした。併し全躰身方の無い老人の賞可き處許り見ることが出來るのを嬉しく思つて、我子を抱いて、ズット側へ引付け頰の邊へキッスを致し升た。其翌日はフオントルロイ早速、ホッブス氏へ手紙を認め升た。其書面は殊の外長文で、一旦草稿したのをお祖父樣の處へ持て來て、添削を請ひ升た、

ダッテ、綴字があんまりいけなそうですもの、お祖父さんが見て、間違つてる處、言つて下されば、僕モ一度書直し升う。

といひ升たが、書た文面は句讀もなく、のべつにいけで、綴字や用字などの過失は、ヒッギンス一件の手紙に類して居て、其趣意は、一寸こんな塩梅でした。

一筆啓上僕祖父さまのことお話し申し度候候間でもあんな侯爵はないと存じ候侯爵は厭制家だと申すも間ちがひに候祖父さまは少も厭制家でなく候おちさまおつきあひなされば仲よくなると存候キットそうだと存候お祖父さまの足にはしゆふうせうといふものありて大變いたいものに御ざ候併し大層辛棒づよい故僕毎日だん／＼好になり候勿論だれでも世の中の人に深切な侯爵ならば好きにならずに居られないと存候おちさんあつて話しゝて御覽なされば好にと存候何でも僕聞こと知つて居る樣で御座候併しまだベース、ボールは見たとないそふで御座候お祖父さまは僕に小馬も車も下され母さまには奇麗な馬車下され候僕は部屋三ッとおちさんが驚くほどたくさんおもちやあり候お城も樹園もを

ちさんが好そうだと存候お城は大變大きい故をぢさんなぞでもまい子になりそうで御座候ウヰルキンスが申候ウヰルキンスは僕の馬丁で御座候城の緣の下に牢があると申候樹園の中は何でも御座候故をぢさん驚くだらうと存候大きな木や鹿や兎や野鷄など澤山居り候お祖父さまは大層金もちで御座候併しをぢさんが侯爵といふものはどれでも高慢で威張つて居ると仰やつたけれどお祖父さまは少しもそうでなく候僕はお祖父さまと一處に步くのが大好で御座候人々はみんなお祖父さまに叮嚀で親切で御座候みんな帽子をとつて禮をいたし候女の人はおじぎをして時々祝して「神樣のお恵を若樣の爲に祈り升」と申候僕今はモウ馬に乘ると上手になり候併し始め稽古した時ゆすぶれ候貧窮の人家賃を拂ふ事出來ない時にお祖父さま追出さずに置てやりなされ候そうしてメロンさんが病氣の子供にぶどう酒や色々の物を持つて行つてやり成され候僕はおかさんに丁度と思候そうして母樣もお城に一處に居られゝば好いと思候併し大變こひしい時でなければいつも幸で御座候僕はお祖父さまが好で御座候だれでもそうで御座候をぢさん手紙を下され度存候

土牢の中には誰も居らず候お祖父さまは牢の中へ人を入れて困しめたよないそうで御座候大層好い侯爵さまでをぢさんに似て居ると思候お祖父樣は大變人望が御座候

……月……日

舊友

エロル、セドリック拜

愛するホッブス樣

侯爵は是を讀み果てゝ

「貴樣は大層お袋が戀しいか?

「エー、僕、いつでも戀しいんです、

と答へて、フォントルロイは侯爵に近寄つて、顏を見ながら、お膝の上へ手を載せ升た。そして、

「お祖父さんは戀しくはないんですネ

といひ升と、老侯は少し面倒などいふ調子で、

「おれは知らないのだ、

「僕、そうない、知てるんですよ、ダカラ、僕、不思議でしようがないんですよ、かあさん、僕に何にか聞だてするんじやないつていつたから……ダカラ聞きやしないけれど、僕、時々考へずに居られないんですよ、ネイ、ソレデ不思

議で〳〵仕方がなくなるんです、ダカラ、僕、戀しくつてしようがない時は、毎晩僕につて、かあさんが燈火を點て置て呉れる處を窓から見てるんです、大變向ふの方だけれど、かあさんが暗くなると、直ぐ窓とこへ置いといて呉れるから、木の間から遠くの方でピカ〳〵〳〵〳〵してるのが見えると、アノ燈火がこふいふんだナと思つてるんです

御前は、

それが何んと云つてるんだ？

アノネ、「セデーヤ、お休みよ、神様が今夜も、一晩中守つて居て下さるよ」つて一處に居た時、仰しやつたとおんなじことです、夜になれば、毎晩そういつて、朝になれば、「今日も一日中神さまがお守り下さるよ」つて仰しやつたから、僕はいつでも、始終大丈夫なんですよ、ネイ、ぬ

御前は冷淡に、

ウン、大丈夫に違ひなかろう、

と仰つて、彼の秀でた眉をズツト下へさげ、稍久しく、チツト、フォントルロイを見詰めて居られ升たから、子供心に何を考へて入つしやるのかと思ひ升た。

雜録

○獨逸國に於ける最近の女論

女性の病を快よく治療せん爲め、且つ婦人に甚適したる一の職業を給せん爲め、「日耳曼女子改良協會」は、國會に建議して、女子に男子同樣の醫師免許を與へよ、又之が爲めに男子同樣大學に入ることを許せよと云ひけり。蓋し獨逸國は女子に對して保守の論を抱き、女子は矢張り家政を取ばらにすべきものとして、之に醫師の免狀を與へず、亦た之に大學入校を許さざるなり。扨て此建議出でたるに付き國會に於ける是非の討論烈しかりが、其大意の略左の如くなりしとなり。

第一、委員シユレーダー氏の言はく、

商法取締規則の中には女子も男子同樣營業を爲すことを得るやうに認定せられ居れど、其營業の準備を爲すべき教育に於て同樣の認定を受け居らざるなり、即はち、醫師たるの試驗は女子に於て之に及第すること難からず、及第したる曉には、女子も男子同樣開業することを得べきは商法取締規則

の認定するところあり。然るに此の試驗を受るに當り、或る大學より「學力認定書」を領收し居らざれば不可なるの規則ゆへ、つまり大學に入ることを得ずと定まり居る女子は此の認定書を領收すること能はず、隨つて試驗に及第し業を開くこと能はざるなり。之を第一の困難とす。

左れど、たとひ獨逸國の大學に入ることを得ざるとも、女子は他國の大學に入ることを得べし、而して他國の大學の認定書も亦た開業試驗の用に同じき効あることなれば、實際に於ては、第一の困難を免るゝことを得べし。

醫師たるの資格に付ては、女子は決して男子に劣ると云ふ可らず、一長一短はありと云へど、或る科に於ては(即はち或る疫病などには、女性を取扱ふと女醫の方宜し、亦注意看護などの點に於ては兎角女醫の方優りたり)婦人反つて男子に勝つこと多し。現に獨逸國中に其業を開き成効するものはありと云へど、只だ欠く所ろのものは公衆に於て之を公認せざることあり。

又た女醫となるは至つて苦しきものなり、故に之を公許す可らずと云ふものあれど、如此き事は女子自身に一任すべし、之が爲めに公許せずとの理由はあらず。惟ふに、女醫になるよりは、女記者、又は女俳優となる方、反つて苦しかるべし。

女子を大學に入るゝことに反對するものは言く、女子は今の大學生間の氣風に適すること能ふまじと。又言く、女子もし大學に入らば、男子大學生の氣風墜落すべしと。左れど、かゝる掛念の杞憂に属するとは、他の文明國に於ける實例結果によりて明白なり。

女子は家政を專ばらにすべきものなりとて、之に反對するものあり、或は然らん、左れど實際醫師となるもの、極めて少なく、僅かに千百万人中の數人なることを思ふときは、一般女子の例を以て直ちに之を禁じ、非凡の有志者を制すべき理由なし。

第二、委員テルテラー氏の言はく、

醫師たるに女子の適することは言ふ迄もなし、魯士亞にても、英國にても、亞米利加にても、多くの女醫あり。左れど、醫師の數に於て此上增加せば國の迷惑なり。女子の最高等教育國を代表する魯士亞を見よ、女子が大學に多く輻湊し

たる結果は、國安を害ふと多きものなり。

其他に名論なし。委員、リツケルト氏は言く、米、英、瑞、伊、斯等の國にては、最早議論片付居れり。伊太利並びにルーマニアの女王たちは宮中に女醫を備へ玉ふ。茲に大ひに考ふべき問題は左の事これ也、

此處に、醫師たらんが爲め教育を受けんとを要求し、又醫師となりて餓たるとき己が手にて正直のパンを得んとを要求する所ろの人間數百万人あり。此時何人と云へども其權利を否み之を禁止すると能はざる也。之れ正義の問題なり、人情の問題なり。

次號には支那の婦人の最近況を記さんとす。

隨感

斷腸

シオンの山人

言笑寥なく喜怒色に形はれずとは東洋的英傑を粉飾するの一要素也然かはあれど折にふれ事にあたりて天眞の人情を現示すの罪なきには及ばざるべう想はる去ればギリシヤの古哲ソロン子を失ひて痛く哀み哭きしとき友だち等は無益のことよと諌めければ然り無益なるが故に尚更に哀む也と對へたるも理なりかし香川景樹翁亦其愛子を失ひしころの日記にものすらく

此二日三日ばかり又をさなきに病ひおこり出て今たびはいよゝせんかたなく見え侍れば今宵のほどもおぼつかなさにやゝ久しう抱き居侍りて打まもりつゝ

限とて抱き止めたる袖の上に先つたまらぬは涙なりけり

くれゆくまに〳〵思の外にゆるひやかなるにくすしたちも熱のうき立ぬればかへりてことなくやあといふ也さるあひたに二度みたびあはたゝしうしはぶきけるまゝ母の膝にいだかれながらとみに息の緒きれ果たるはいとはかなき限なりけり……曉にいつも泣きさけぶ聲するにさるけはひのきこえぬはいとあやしと思ふまでまどへりけりさて胸うちたゝけとわきくる涙のせかるべうもあければ起あがりて筆の行まゝにかい付しとのきたなさよ……

さま〴〵に思ひまどひし此道の闇を再びたどりける哉

ながめても此世の空と思ぬは子に別れたる朝なりけり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かくはかいつられたれど猶見てをかこつべき人しもなけれ
ばかしこはゝれど花岡公孫の君のみもとへやがて來りあけ
つ

又我は賢夫人其女の子をのこして世を去りしとき

なき母のあとを慕てみどり子の指さす方や何處なる覽

とアー斷腸又斷腸かく有のまゝに心の至聖所の扉を開き揚けてこそ夫人當傑の面目躍然活動すべきなれ夫れ至人の號叫は香はしき祈禱也斷腸は人類の精ならんや失望は人の子の業ならんや見の故に時の人云へることあり「此等の諸暗にをる民は大なる光を見死地と死蔭に坐する者の上に光出でたり」と此の光とは何者ぞ現在の大詩伯エッドウヰン、アーノルド氏が所謂世界の光なる基督也。

耶蘇嬰孩を呼び弟子に曰けるに嬰孩を我に來らせよ
神の國に居るものはかくの如きもの也。

〰〰〰〰〰〰

大人は小見の如し（孟子）。

家政

女性獨語

う、まさを。

（一）神を敬ふ處女

髮をくみ、金と眞珠とをかけ、又價貴き衣を着るが如き、外面の妝飾は、妾が好まざる處、恥を知り、よく愼み、よろしきにかなふ衣を以て自ら飾り、心のうちに柔和溫順貞節寡欲敬虔を以て飾りとするは、妾が今も後もしかせんと願ふところ、艶麗はいつはりなり、美色は呼吸の如し、惟エホバを畏るゝ女は譽められんと古の人はいへり、妾もしか信ず……

妾は必ず婚姻すべきか、否、必ず結婚すべからざるか、否々、妾は食ふために生きず、生て行を立て、道を行ふために食するが如く、また婚姻するために生きず、生て靈性を發達し、事業を助け、自他を益し、幸福圓滿の家庭を造り出さんがためには婚姻すべきなり、されば妾は只神の合せたまふと信ずるときは進みなん、さもなくば父母朋友のすゝめも何いなみなん、まして肉によりて婚するをや、斷じてなすまじ、斷じなすまじ。………

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(二) 新婦

妾が所天は定まりぬ、良人の半身として撰まれ、之を助け、之を慰め、之を勵ますべきの身とはなりぬ、妾不才にして只及ばざるを恐る、主の僕パウロ――は、嫁せしものは如何に夫を悦ばせんと世の事を思煩ふとて歎息せり、されど夫を悦し又慰むるは、妾が避くべからざるの樂なり、愛は淸からざれば深からず、我が淸き愛、温かき情を、我良人に捧げなん、……良人外に在す、我心安からず、されど妾は我良人が他に出るをすゝむ、これ良人のためなればなり、候……良人はいひたまふ、賢く事をなす女は多けれど、汝はすべての女に愈れりと、あゝ良人が愛の深き如何ばかりぞや、あゝ愛よ、もろもろの快樂の中にありて、なんぢは如何に美しく、如何に悦ばしきものなるかな、愛は大水も消すことあたはず、洪水も溺らすことあたはず、人その家の一切の物をことごとく與へて、愛に換んとすれども、尙いやしめん、我愛する人の男子等の中にあるは、林の樹の中に林檎のあるがごとく、我ふかく喜こびて其蔭にすわれり、其實はわが口に甘かりきと、古の人が歌ひしことを、今思ひあたりぬ、妾は如何にして此愛に酬ひなん、我全身をさゝげて、我滿腹の思をつくして、願くは冠冕となりて、良人を飾り、我手の操作によりて、良人のために善事をなさん。

(三) みもちの婦人

……近頃少々不快にて、臥したり起きたり成るゝよし、お案じ申候、併し此は先日通々御申越の姙娠のためならんとぞんじ候へば、之れあれば今少し月を重ねなば、次第に心地よく相成可申と信じ居候……あゝ親の愛は、かくも我事に心を摧きたまふか、妾は實に一人の子を與へられんとす、其責任ますます重くはなりぬ、子の敎育は六歲の小學校、三歲の幼稚園、已に遲し、家庭の敎もなほ遲し、尤も大切なるは胎敎にありと聞けば、妾が今の一顰一笑も胎中に感應を與へ、道念の隆汚、精神の高卑を遺傳すとすれば、つゝしみてもつゝしむべきなり、されば見るべきものをつゝしまん、此居間に無邪氣にして愛らしき小兒の油繪、一つ二つをかけて、朝夕ながめなん、讀むものもつゝしみて、心を汚し慾を起すが如きものは、手にだに取るまじ、かねて好める古の賢母の傳記など、此際一きわ打ながめなん、あゝ前途を思へば、恐ろ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

しくき、あゝ嬉しくもあるかな…………

（四）　子を擧げし時

妻子を産んとする時に憂ふ、其痛いたるによりてなり、されど已に生みし時の苦をわする、世に人の生れたる喜樂に因てなりと聖者のいひたまへる如く、恐れもし、苦みもせしが、安ずるよりに安く、此嬰兒を與へられ、神の子として受授すべきことを命じたまへり、我の責任一層重くはなりぬ、バプテスマのヨハネが生るゝや、聞くもの皆心を蔵めて、此子は如何なるものにか成らんといへり、我も亦しか思ず、ヨハネは主の手かれと共にありしかば、大なる人となりし　女の生めるものゝ中未だバプテスマのヨハネより大なる預言者になかりしとは、彼の靈妙何なりしやらん、小兒の一言一行に、神の方則なりと觀ずれば、如何に想ふべきことならずや、………あゝ我子よ母が教を聞きて、神の無用の人となりたまひそ、あゝ爾よ、如何かや…………願くに主の手、此子と共にありたまふて、あなたの榮の子となりしめ給へ、又母親をして此責任を全ふせしめ給へ、これ我が祈禱なり。

文學

淺香詩風大人批（柴山子第一社中）

子規

、夕立のなごりの雲のかづありてさし出る月になく郭公　前島
（雲間よりもれ）

靜かなる腰かのき端をしたくも音づれてなく山子規　前島
（雲のいまより）
評　腰は柳来もしらぬ農夫樵夫など也其軒端に音づれたりさて何さも感ぜさるべし詠者は百姓小家に居る者もなし故に句がやはよそより見たる景情ないふべきなりもし詠者居る處なら山里家の軒などいふべし

五月雨に訪ふ人もなきつれ／＼をなぐさめてなく子規哉　山口

有明の月の殘ろをしたひてや山子規鳴もをしまぬ　山口
（ちらふ石）

夕立の晴し木の間に月てりて二聲三聲なく子規　磯貝
評　晴るゝ木間より月のつよきが月影ならば廣大に及ばないふ木の間ならもりるなどいふべきなり

物のみもの思ふ夜半にふる聲を何思べとやなく郭公　磯貝

、子規なくねばかりとなりにけり月入はてし松のむら立　尾崎

、谷水の上にかくれて子規聲のみ高くなきわたるかな　尾崎
（聞えける）

小説

苦患の鎖

ひさご女史

入日さす西片町の小高き所に構へたる新築、青々としたる杉垣根結ひめぐらしゝ中より、行水の湯涌かすにや、煙立昇りてせはしき臺所の夕暮を、不知顔に、奥にはさし向ひの若夫婦、夕飯早過て、小楊枝皆に弄ぶは、廿七八許の主人、鼻の下の泑鬚左の手に引のばして、口にくはへつゝ、安坐かきたる兩膝、ゆすりて、右の手は後の方に躰を支へ、丈高く痩かたちに目のふちいつも紅を帶び、見上げ勝ある色白の好男子、向ひざまに坐したるは廿一二根高く結ひ上げし東髪の頭うなだれ、中を隔てし一間張の食卓に頬杖つきて、新聞を目の中に讀、はへぎは際だちて濃く色あく淡白く肥肉にてうちひそみたれども愛敬たるゝ許に見ゆる容貌、とみかうみて突然に

夫「めしィナぜくはんのだエ、なつ

妻「ナゼッテ、あなた、私くしの心持をまだ御存じないの、胸[illegible]いやアになつて喰べられないとはよくわり升、そんなに心配して下さらないでも、

つぶやく如く答へし顔を一瞥して夫は卓上の菓子器に手をかけ蓋をとりて

夫「菓子アもうないのか、今日たれかきたのか

妻「細谷の奥さんと、松村さんと、それからあの呉野……

夫「呉野、ムー呉野と、もうめし仕舞つたのだナ

妻「ダッテ、あなたをまつてゐても、際限がありませんから、御先へ失禮をしました、晩の御膳、家で召上る事、幾日目だか知やアしない、と言捨て、ホト歎息す。夫は少し蒼白みて見しが

夫「ナア松、久しぶりなら、久しぶりで、まつてゝくれてもよさゝうなもんだ。それやアそうと、どこへか行のか

妻「今夜は歌舞伎座の夜芝居へ行やうに、つけ込んで、置きました、いづれあなたも、どこへか御出たらうとおもつて

夫「何、どこへ行ものか、なんなら御供申上やう

姉「どちらでも

夫「愛想づかしは言ないもんだ、時に廣子さんの噺し聞たかネ

姉「廣子さんがどうしました

夫「ナニ、たゞ夫に逐出されたといふ丈けのことだが、然し随分不名譽な噺かさなことだナア

婦「とう〳〵手紙の通ナ
夫はすりより顏をさし出して
夫「ダガ、あの女の不身持は、夫につらく當つて、交際が大まかで、いやになるのも無理はないのサ
婦「不身持、不身持とおつしやい、ナニ不身持なもんですが、[illegible][illegible]しくつて信實で、いゝ人です、あんな夫さへ持たなければ
夫「おまへと誤解してゐるのだ、竹本の愛しかたといふものは非常だつた、廣子さんがあれで滿足しないじやア
婦「ナニ、竹本さんはどんなに愛したかしりませんが、愛しかたがちがひます、あの人はまるで女房を牢獄中へ入れて、囚人あつかいにしてゐたんです、女だつて、女だつて、そんな境界がおくれますかへ、子供だつてされたもんです、一人の乳母をつけて閉込んでおいて、いゝもんでせうか、廣子さんが[illegible]くんでおつしやつた事がありましたよ、夫はとにかく意思の自由を束縛されたのは實につらいツて、あの方は意思の自由を束縛されてゐたのですもの、私くしは離縁の方を幸福だとおもひます、チツトモ、後悔してゐることはありません、あれでなんです竹本さんが、廣子さんにおつしやるやうであるかと、いふとさうじやアないのです、御自分はしたい三昧のことをして、廣子さん計を壓制なさるのは全體どういふのが御好なのだか、わからないじやアありませんか
夫「ナアンダおまへは朋友だから、そんなに辯護するのかしらんが、私に對しておこりつけんでもいゝじやアないか
婦「イヽエ、世間には自分は自分、人は人と言行一致しない人がいくらもあります、私くしは廣子さんの肩を充分持たいのですといひはなし、横側づたいにあゆみさりぬ。

蓮の根の絲引出すが如く、浪の上にたゞよる路のごとく、きれんとしてつながり、斷んとしてとりとゞまるは松子夫婦が有樣なり。松子は活潑潑地なる性なれば何事も人の下に立事をもどかしく、内部の事に嘴を入れおもひのまゝに、振舞とはいへども、夫を蔑がしろに我意をふるふなどの樣はゆめにもなかりしなり。夫も如才なく立まはり、當世才子と稱讃され名聲ます〳〵高きにつけ、はじめの程こそものめづらしく萬事松子にうちまかしたれ、意の向ふ所おのれと同じくて衝突すやうなるが、快よからず、諸事に松子の意を曲げ、屈服させんとするに、松子の性來としていかで堪ゆべき、勢いよ〳〵

加はりたれど奔馬の轡うたれながらなほ手綱ひかへらるゝ心地して、おもふまゝにならぬを口おしくとおもひかくおもひし末自然人なつかしく外出勝に遊びあるき、家政向の事心にとめぬやう成行に、夫も我居おもしろからず、同じやうに出あるく、かゝる心同じき二人一躰とならば、所謂似た者夫婦とて仲介親密ならんとおもしはかるは未だ誠の人情しれるならず、似た者夫婦てふこそ結婚の禁句なれ、たゞ似んとゝもにつとめひかえ勝なるは婚姻後の心得にて、一家和合の基なるべしと、ある既婚者かたりぬとぞ。松子は新婚のたのしみ夢と過てこの頃は不愉快に心樂しからず、快悒としたる夫促がして夜芝居へおもむきぬ、狂言は容貌幸福の綱といへる夫婦の關係を寫しゝものなり、趣向滑稽まじりて、おもしろく作りなしたれば、この二人の嗜好には尤も適したるものなれども、思ふ事ある身は見んも佗しくわが二人の有様を苦患の種なりとこの時にはいとゞ深く感ぜられぬ。松子はせめてもの心やりにと、見物を見めぐらすうち、はしなく、一人の友を見出でしかばさしまねけば、うれしげに挨拶してこなたへきたり、喋々と一別以來の口上に人に口開すひまなく、愛敬したゝる如き顔さま〴〵に伸縮させて、高らかにうちわらふは、後にしたがふ夫の温柔むしろ遲鈍なるに反照して見えながら、何となく幸福の綱はこの兩人をむすべるやうおぼはるゝに、松子もうきを忘れてかたり合うち、かの良野もこの場にきたり、談話閑に成しかど、夫は一人手持なく妬しさ限りなく噺しの途絶覗ひて、仲間に入らんと心がくる時、松子の辭高かに

松「さうですど、うれしいですが、うちの頑固が、この頃は一人でだしませんからだめですヨ、今日だつて……

夫は聞より耳クワッと熱して動悸はげしく、その方ふりむきて人に顔見られんも心苦し、我面いかに赤く我眼いかにするどきやと半巾に幾度我顔ぬぐひて、其方向さらんとするは、首引の力角に負色見ゆる心地して苦とも苦き程こそあれ、打出しの太鼓の音聞ゆるを好機會と側の人には挨拶もせず、松子の手をとり立出て車にのせ、おのれは、常行なれし玉突店にあしをむけぬ。

迎接日　木曜日午后二時半以后
横濱は第四土曜日早朝　　巖本

理學

秋に入てよりコレラ病尚退かず、季候がはりの折柄一入心を着けべきとなり、故に左の一説を掲ぐ。

○傳染病毒の除滅作用

吉田伸子

動植物の枯死せる物、分解するときは、大概瓦斯を發す。此瓦斯は悪臭ありて、人の健康を害すること少なからず、而して此分解の起るに當り、唯有毒氣を發出するのみならず、極微なる分解物の固形部分、空中に飛散するを常とす。此物の中には病芽を含む、故に之を除去せざれば、早晩病毒傳染の憂を免れざる者とす右に陳ぶる如き分解は、如何にして生ずるや、是他なし、其源因となるものは、細微の下等有機物にして、此物發育に適する、固體或は液體中に入るときは、忽ち分解を起す。吾人此分解を呼で、腐敗と云ふ。彼に肉類果實の如き、腐敗し易き物と雖ども、之を罐詰めとなして貯へ、空氣及其中に散在せる、腐敗の萌芽に觸れざらしめば、長く腐敗することなし、而して此腐敗物が人の健康を害するは、既に陳る如くにして、居所に此腐敗物堆積する所に於ては、若し啻に一時發病するに至らざるも、傳染病毒の潜伏する巣窟たるか、或は其生育所たることを免れず、因て吾人は務て清潔にし、此病毒を遠ざけざるべからず、又既に繁殖せる病芽を、驅除するには、有害物を化學作用に由て、無害物に變ずるに在るなり。さて除毒清淨法中に於て、最も卓越なるは、自然作用にして、空氣水土及冷熱の作用等之に屬す。

空氣の作用

空氣中の酸素は、腐敗物を、酸化作用に因て撲滅し、無害物となす、加之風は空中に浮游せる病芽を、吹き散らして、病毒を逞ふすること能はざらしむ、又清潔空氣中に飛散せし、下等有機物は食餌を得ざるが爲めに、遂に餓死するに至る、是れ通氣法の衛生上最も輕忽にすべからざる所以なり。

水の作用

水は諸物を洗滌するに、欠くべからざるものにして、自然除毒清潔作用中の高位を占む。水は種々の方法に由て、腐敗物を除去し、或は酸化せしむ、今其一例を擧げんに、暗渠中に堆積せる腐敗物は流水の力に由て、河川中に流れ下り、河川は之を受て、再び海洋に送る、而して海水中には、クロル鹽類硫酸鹽類等の可溶物を含むを以て、此諸鹽類の除毒作用に由て、忽ち撲滅せらる、又風力及潮流の爲に、驚瀾激濤と供に、清淨にして酸化力に富る、空氣中に掀揚せらるゝを以て、何的劇毒性の汚物と雖ども水の作用に逢て除滅せられざるものなきなり。又雨水も機械的作用に由て空中に散在せる汚物を除去す、彼の驟雨の後、特に爽快を覺ふるは、唯に暑を洗ひ涼を送るが爲のみにあらざることを、會解すべし。

土地の作用

其他廣大なる自然作用は土壤なり、且之に空氣と水を、併用するときは、大に其力を益すなり。地皮は他の空隙多き物體の如く、多孔質にして、其内部に多量の空氣を含む、故に腐敗有機物此中に入れば、忽ち酸化して消滅す、而して充分に此酸化作用を備ふる土壤は無臭なり、彼の深井より湧出する飲料水は、清潔にして無臭なるも、全く此理による、若し土壤に此清潔作用なきときは、地面は動植物の死體殘滓を以て覆れ、堪へがたきにするなり。

冷熱の作用

溫熱も亦高度に達すれば、病芽を乾燥し、或は熱殺するを以て、撲滅することを得るなり、而して此目的に於て要する溫度は、攝氏の三百度乃至三百五十度以上なりとす。寒冷は病芽を凍死せしめ、或は其繁殖を防ぐに、最も適當なるものにして溫度降て、水の結氷點に至れば、萌芽は全く作用せず、從て腐敗も亦停止せらる、彼の氷中に埋沒せる動物の、永く原形を損傷せざるは、以て一例と爲すに足るなり。

除毒劑

人爲除毒劑を分て、二種とす、其第一は液形及固形物にして第二は氣狀體即ち瓦斯及蒸發氣是なり、而して氣體の除毒劑は空氣を清潔にするに用ひ、固液二形の除毒劑は固體及液體の分解物に應用すべし。此第一種に屬する藥劑は、過マンガン酸ポツタシユム、石炭酸クロル化鹽、硫酸鹽、醋酸鹽等の可溶鹽を始めとし、硫酸、精製獸炭、木炭等是なり。第二種に屬するものは亞硫酸氣、鹽素氣、及沃臭二素の蒸氣にして、中に就きて亞硫酸氣は、硫黄を火中に投すれば、直に發出するを以て、最得易しとす。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○吉田松陰傳

撫象子

維新史料を編次し多く事實を集めたると五年、而して品川彌二郎氏が藏する所を更に加へ、野史臺に於て遂に此の松陰傳を編著したり。

體裁は、年に因りて行事を繫ぎ、詩歌文章を以て折々の情感を自露し、讀者をして直ちに松陰先生の胸中を窺はしむ。歴史に於ては編年の體頗ぶる可ならずと雖ども、傳記に於ては此體寧ろ佳也。況んや吟咏は人の肺腑を露はし毫末の蔽ふ所ろなきものなれば、之を採りて一々當年の感を示すは、眞佳の法を得たるものと云ふべけれ。

性格人物に就きては短かく評するを好まず。今まは只だ左の一文章を掲げ、世人が誤りに彼を疎放烈性の人とのみ認むるとの誤りを正す。其妹に送りたる次の別紙に云く、

別紙

凡人の子のかしこきもおろかなるもよきもあしきも大てい父母の敎による事なり就中男子は多くは母のをしへを受ることまた其大がいなり乍去男子女子ともに十才までは母のをしへを受ること一しほ多く或は父はおごそかに母はいたみ父は常に外にいで母は常に内にあればなり然ば子の賢愚善悪に關する所なれば母の敎へゆるかせにすべからず併し其敎といふも十才以下小兒の事なれば言語にてさとすべきにあらず只正しきを以てかんずるの外あるべからず昔聖人の作法には胎敎と申事あり子胎内に舍れば母は言語立居より給へるものなどに至るまで萬事心を用ひ正しからぬ事なき樣にすれば生れる子形體正しく器量人に勝るとなり物しらぬ人の心にて胎内に舍れるみきゝもせず物も言はぬものゆへ母が行正しくしたりとてなどか通ずべきと思ふべけれどもこは道理を知らぬ故合點ゆかぬなり凡人は天地の正しき氣を得て形を拵ひ天地の正しき理を得て心を拵へたる者なれば正しきは習はず敎にして自然持ち得る道具なりゆへに母は行正しければ自然かんずること更に疑ふべきはあらず是を正しきを感ずると申なりまして生れいで目も見へ耳も聞え口も物いふに至りてはたとへ小兒なればとて何とて正しきに感ぜざるべきや扨また正しきは人の持前とは申せ

とも人は至てさときものゆへ正しからぬ事に感ずるも亦速かなり能々心得べきことならずや因て玆に人の母たるものゝ行ふべき大切なることを記す此他ちいさき事を記さすとも人々辨ふ所なれば略しおきぬ。

○護教

メソヂスト派の器關にして愛山生が編輯する「護教」は、彌よ出でゝ彌よ吉し、山路彌吉君の手に成るが故なり。宗教週報のうち第一に推かずんばある可らず。

序で乍ら答ふ、春と秋との間には關問題に非ず、倫理科の試驗問題なり。倫理問題は兎角器械的、難用的のもの多し、かゝる題にあらずば隱れたる道念を見出すよかたきを以て掲げたるよしに聞けり。慧眼なる記者君より承知せらるべきことなり。

○舊事諮問錄

其第二篇に大奥の事を載す、舊幕の中臈箕浦はな子、同御次佐々鎮子の二人諮問に答へたり。將軍御夫婦の間柄の事、御吹子の事、食事の事など具さにして、宛がら當年の景況を目に見るが如し。

新誌一覽

○洋鷄卵の養分

さまぐの洋鷄の卵の養分比較は左の如しと、大日本私立衞生會雜誌九九號に見ゆ。

種別	全重量瓦	殼%	水分%	含窒素物%	脂肪%	灰分%
ブラマ	九六、二	九、三一	七一、四五六	一六、二〇〇	一一、三〇六	一、〇三八
プリモースロック	五九、九	一一、六九	七五、一三三	一四、六九五	九、二五三	〇、九一九
スパニシ	五三、〇	一一、五二	七三、五七四	一五、七六七	九、六七二	〇、九八七
ミノルカ	五八、三	一〇、八二	七一、六八八	一六、九四〇	九、三五九	一、〇一三
ケーニッヒ氏所揚	五三、〇	一一、三三	七三、六七〇	一二、五五〇	一二、六六〇	一、二二〇

○水泳の論

六合雜誌の第百二十八號に行政之助君が、水泳論あり、詳細して、「魚形游泳法就中蛙傳泳は最も終絶せる水泳術なり」と云ひ、水泳の秘傳を記るして云ふ、水中游泳の法、魚形に似て務く自體に適するを許さし敢て水に逆らはぬを妙とすと、又云く、蛙傳泳の開祖は原六郎左衞門が終生の主義は、水陸一致脚力定まれば水中を歩して納は陸上を歩むが如くなるべしと云ふにありと。諸藝の奥義皆な道なり、拙て許人が此道を論じたるも同主旨なり。

○盲啞

盲人之友、第一號に東京盲啞學校開校以來の記事を載せたり。開初に云く、明治八年五月廿二日古川正雄、津田仙、中村正直、岸田吟香、及獨逸亞米利加ルセラン教會宣教師ボルシヤルド五名東京築地小田原町英國醫師ホウルド宅に於て訓盲の事を議し樂善會を組織せるを濫觴とす之より先きホウルド氏古川正雄氏等に謀て日く日本盲人の多きは埃及に二倍し英國に三倍せり此の如き多數の盲人は之を訓導せざる可らずと云々此日古川正雄氏會頭に岸田吟香氏書記に公撰さると。明治十三年一月初て訓盲院の事務を開く。明治十八年九月より文部省に屬すと。

○同志社卒業生

各科の人數左の如しと云へり、以て精神界の最大私立學校に於ける學生が傾向何如んを知ることを得べし。(同志社文學會雜誌四五號)

	普通科	本科神學	別課神學	女學校	合計
明治十二年	〇	一五	〇	〇	一五
同十三年	四	〇	〇	〇	四
同十四年	一八	〇	〇	〇	一八
同十五年	六	〇	〇	五	一一
同十六年	八	〇	〇	〇	八
同十七年	一〇	一三	〇	三	二六
同十八年	二	一	八	〇	一一
同十九年	二	〇	〇	二	四
同二十年	一〇	一	〇	四	一五
同廿一年	二〇	一	一〇	六	三七
同廿二年	二五	五	六	四	四〇
同廿三年	二八	二	八	〇	三八
同廿四年	四七	二	一五	三	六七
總計	一七〇	四〇	四七	二七	二八四

内一人にして普通科と神學科を卒業せしもの二十二名又永眠せしもの七名

現在人員二百五十五名

次號には岡田超作氏新發見 習字新誌 の細說及び評を揭べし

時事

○本年の議會

昨年の第一議會は何人も大に怨すべきことを承知したり。民心をして倦ましめ絶望せしむるか、はた慨然奮立して大有爲の望みを繫がしむるかは、本年の議會の形勢何如にあり。

○支那文學

纖弱冗漫なる言文一致、轉じて元祿文となり。下卑たる元祿文の後に優長閒雅なる古文出で、長々しき古文と共に奇嬌偏狹なる俳諧の行はれたるは自然の成行なり。而して俳諧の一轉して支那文學に移ると亦當然の勢なり。厭き易き人情にも由れど亦自らの道行を步みたり。斯て最後に到着すべきは、眞實、平易、高潔、なる當世文ならんとは亦言ふ迄もなし。

○不景氣

市中貸家札賣家札多し、左れど之を不景氣の一時の現象となすべからず。凡そ「不景氣」と云へる語ばには「一時の變象」と云へる意氣を含む、故に之れを聞て、恐慌するの姿あり。則はちいよ〱不景氣を買ふ。然れども、今の不景氣は、變

常に非ず、常態なり。一時の狂氣ぢみたる大浮れより、近年當然の地位に復したる迄なり。之を不景氣として暫らくの事と思ふ可らず、之を當然の世の有樣としていよ〳〵勉強すべし。假りの間の僥倖を望みて引込思案をすれば、いよ〳〵困難すべし、今は即はち勉強すべき時なり。

○基督教會

二年間沈靜として衰なひたる基督教會内の元氣は、今や鬱勃として少しづゝ迸ばしり出でんとす。目下は、大噴裂すべき火山の頂點に、曉早く、異樣の黒烟を認たむるの樣なり。識なき人は之を漠々たる天の浮雲なりと云へり。

○破邪

邪を破るは正を顯はすに若かず、吾人は宗教家が議論に於て相敵するを見、常に其功能なかるべきことを信ずるなり。果實によりて樹木の善惡を評しすべし、道德上の事に就て之を見て相爭はんとするは抑そも末なり。況んや宗教上の事をや。基督教會の佛教を觀ると、今一きは冷淡にして可なり。

○秋

秋に入つて此の方、天の空氣膨を探つて清風一渦するを覺ゆるは無益の譯なり。政治上、文學上、宗教上に於ても亦た若くあらんことを希望す。

○アイヌ人の禁酒會

北海禁酒會は、殊にアイヌ婦風部を新設して附屬となしぬ。神武當年の強健なる人種、日に日に亡滅に歸し行くを見て、誰か感慨の涙を揮はざるものあらん。吾人、同胞が西洋人に憫然するると同時に、其のアイヌ人を見るとの冷淡なるに然かずんばあらず。而して今や此の美擧あり、謹んで其成功を天に祈るものなり。

○一宗の亡機大臣の手にあり

「日本」記者が言へりし如く、佛門の紛擾、曹洞宗に至りて極まれりといふべし。九月三日、内務大臣は訓令を發して云く、近來各宗の内に互ひに名利を爭ひ紛議の風を釀成する弊あり僧侶にして有間敷所業と、又云く、仍て其弊を禁止すると能はざる時は本大臣監督上臨機の處分を爲すは格別とし一宗の自から衰亡に歸するは必然に可有之と。日本政界の大臣をして如此く認定せしめ、而して如此き大恥辱の訓令を發せしむるに至りて、宗教家たるもの何の面目ある乎。

○京都府高等女學校

中外電報の記する所に據れば、京都府高等女學校の女生信書秘密の自由を行せずとなり。蓋し、女生へ向けての來書は舍監立會の上開封檢査し、又女生より男子に向けて發する書狀は披見登記の上初めて發送すと云へり。あゝ女生を教育するに斯迄での束縛を爲さゞれば危險なりと云ふか。斯程に感化力なき學校は閉鎖するに若かず。且や、如此き取締法は一切效なきものなり、人を禁ゆるは之を射るが如し、先づ其良心に向つて中てずんば、万千の規則も何の効かあらん。

○廢娼運動

渡瀨寅二郎氏は甲府に於て廢娼大演說會を催ふし、大ひに市中を動かしたり。飯野吉三郎氏は、岐阜縣下に遊說し、妓樓主人をして廢業せしめ、諸議員を說き、本年の縣會に於ては必らず全勝の見込を得。去月箱根夏季學校に於て相約したる青年は各地に於て既に勃興準備中。今や廢娼會の氣焰遠からずして燦然たらんとす。

○外人不法

伊國公使鎌倉の別莊に在て銃獵規則を犯したる旨の上申ありし由。居留地外に公使の別莊あるは如何なる理由ぞ。且つや銃獵規則を犯せるものは之を處罰せずんばある可らず。吾人は其自治の速かならんことを熱望するものゝ也。

○醜業出稼女取締法案

昨年一月上院に呈出したる政府案は、其後故ありて引退せられ、而して今年は復たび呈出せられざるの見込なるよし。其理由の一つとして示はるは、事外交に關し、影響する所ろ甚大なるが故に在りとぞ。然り、既に外地に渡り外人の家に隱れたる出稼女は之を容易く取扱ふこと能はずと雖ども、其內地を出立んとするに當ての取締向は、一層嚴重綿密ならずんばある可らず。之が爲めに一の新法例を設定するは頗ぶる必要の事とす、政府もし再たび案を出さずば、議會に於て自ら之を出議せんことを要す。

○內外前後

然りと雖ども、公然出稼を禁止すると同時に、內地に於ける公娼を禁止するの法例を發せずんばある可らず、然らずんば法理に於て義を失ふこと多く、名分に於て協はざる所ろ多く、實効に於て奏する所ろ少なし。吾人常に若く主張す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

問答

あい子編

●問。家政を學ぶには、如何なる書を以て最良といたし候や(備後一少年)●答。家政の事を論じた本はまた左程よきものを見出しません、女學雜誌の家政欄はこの不足を補ふことです。

●問。本郷に婦人下宿は無御座候や(本郷女學生)。●答。此頃本郷區小川町二丁目八番地に森さやま、さいふ基督信者の下宿屋が出來ました。

通信

あい子編

●岩手訓盲會 當地に東北盲人教育會(仙台の分會)なるものありしを先程都合によりて同會を廢し、岩手訓盲會と稱するものを設立し、盲人を教育する由、教師は仙台の盲啞學校卒業生にして、發起人は當地の坂井、加藤某氏等なりとぞ。

●盛岡婦人矯風會にては横濱より歸着なし居る木村某女史の奔走により、上中流婦人及び有志者より若干の寄附金を得、又會員も増加するに至れりとぞ。

●岩手基督教會にては、東京より毎月一回の機關雜誌を發行せんと計畫なし居る由。

●速記者の機關新聞 岩手にて速記術を研究なし居らるゝ濱岡桂氏は昨月十五日定價一錢の小新聞を發刊したり。

●岩手尋常師範學校同窓懇話會 を去る一日同校講堂に於て開行せり。

●同門會 濱田郡浦濱村の人桜田某氏は、男女教育の別あるべき主張者にて、已に十年前より殊に女子小學校を設立しておりしが、同校出身の女子にして已に十歳たるもの百餘名に達したれば、卒業生の發起により、謝恩のため氏の邸に於て茶話會を去る二日に開きたり。

●佛教女子講談會 去月卅日紫田郡岩村園にて開きたり、傍聽者三百餘人、演説者は松浦かね子、金やす子、明海むめ子、加藤文子、等なりしと。

●修道院 盛岡にて女子に佛教を修めしめんため、目下一校建築中なり、その名は題號の如し。

●宮城女學校 は、今回女生徒を募集せり。

●ちごく 大に歡せらる無慮七十名、贊成を儲ます大ならん。(以上仙台通信)

●高知縣尋常師範學校女子部 本年に於ける卒業生は二十六名にして、悉く高等尋常小學の訓導に任ぜられたり。目下新募生の入學試驗執行中なり。

●高知尋常中學校女子部 に於ける本年の卒業生は二十九名にして、現在生は、八十四名なり、目下入學生募集中。

●高知英和女學校 はミッション、スクールにして明治廿年に創立せり、教師は米國婦人三名本邦人男四名女一名にて各學科を當擔し居れり、現在生徒五十餘名あり、入學生募集中の生徒は、毎週金曜日に會合して、習藝會を副し之を賣り、利益を蓄積し、貧民救助もしくは其他の慈善業に貢献する由、同校婦人會より發兌する雜誌は、すでに四號まで出版せり。

●貧民學校 今般高知に一の貧民學校を設立せり、其目的は、公立小學校に入學する能はざる極めて貧困なる幼兒を教導撫育せんが爲なりと、其發起者は、小倉金子、山崎竹子、吉岡さり子其他の諸氏にして、維持は基督教徒有志者の義捐金による。

●和歌山婦人會及和歌山病院内婦人教會 は八九の二月間暑中に付休會せり。

●和歌山 女子技藝學校は、市會の決議を以て三十名を限り募集せしに申込定員に超ゆるを以て、今般和歌山市岡塩の建物を修繕し移轉の由、目下未だ修繕中、學科は八級の外修身、讀、作法、家政學を教授す。

●速記 當市に速記術講習會あり、一名の女子修業なり、卒業の上は、婦人會の演説などを速記することを依頼する目算の由、該會員は語られなり(以下和歌山通信)

●貞女節婦 和歌山縣那賀郡發川村平民孫竹勝次郎の妻はつ(三十七才)は、十六才の時勝次郎に嫁したり、はつ子性質溫和篤實、老舅清吉を親切に介抱し夫婦の間も睦しく、富むに非ねども先づ尋常の生計をなし居れり、二年を經て勝次郎俄に眼病にかゝれり。はつ子は心一と方ならず、赤心を盡くしたる種々の治療も其効なく、遂に盲目と成り果てたり、はつ子は一時は悲痛に堪へざりしも斯くてはならずと奮起して獨身寡居勤務して舅父と夫を養ひしに男女二人の子を設けてより殊に家計容易ならず、さかくする中明治十九年老父胃腸炎にかゝり、足らぬ中にも醫藥治療に手を用ひしも、二年の長病の後遂に死せり、種々の不幸に家財道具はいふまでもなく夜の着さへもなきにいたり、今は富家に雇はれて一日僅かの賃錢を得一家四口を糊する中にも、長女そめには裁縫を教へ長男清吉は小學校へ入學せしめ、三度の食事を缺くるも授業料は勿論諸上納よりいまだ曾て未納せしことなし、同村長はつ子は廿三年一月の如き此特篤行に感じ縣廳へ具申し、此程金六圓を賞與せられしといふ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●荷貧なる兒女　同縣尋常小學校三年級なる某女兒は、其家貧なるにあらざるに、寄特にも日々の小遣一錢のうち五厘を貯へ授業料を拂い居れりと。

●良教師　同縣信夫郡清水村尋常小學校訓導渡邊新助氏假て、兒童の教育に熱心なりしが、今度校舍近傍の畑地を借受け、修業時間外自ら授業師となり漱勵を手にし、温習生徒をして耕耘の實業を習はしめ居るといふ。しかして其收穫品を得て貧民教育費に充つといふ。

●貧生救濟業　福島縣湯本村中村櫻は去月廿九日斷然廢業せり。

●獎學會　福島縣福島町の長尾次郎、鈴木三郎兵衞の二氏發起者となり、頴悟の如き會を創設せんと計畫中、右は赤貧子弟の就學したるもの或は中途にして學校員各々業志を貫く能はざる者を救濟する目的なりといふ。

女報

あい子編

●醜業者正業に復す　横濱市中に於て醜業を營み糊口するもの其數三千人餘もある由なるが、過般來横濱警察署に於て是等醜業をなす者を嚴重に取締りし以來、俄に其數を減じ、目下追々正業に復する趣きなり。

●廢娼演說　去一日夜甲府望仙閣に於ての同演說は、聽衆凡そ四百名、辯士小池太三郞、太田貞吉、渡瀨寅三郞諸氏にて、極く靜肅にして、喝采の聲時々屋外に溢るゝのみなりし。

●東京府高等女學校　は、生徒日々に增加し、假校舍狹隘を告ぐるを以て近々新築の計畫あるよし。又同校は卒業生のため撰修を設置せらるよし。

●板垣令息鉾太郞氏と陸奥令孃　とは、後藤伯の媒介にて結婚の約整ひたる由。

●京都高等女學校　にては去月中本科並に豫科へ各廿名、和服科へ十名の女生を募集せしが、意外に申込者少く猶本月中は入學を許可すことゝ内決せりと。又同校にて學生へ宛てたる男子の書簡は、父兄保證人を除くの外當舍監に渡し舍監立合の上ならでは開封することを許るされざるよし、學生より男子に送くる信書も同じ。

●淸人日本婦人を誘拐す、此程某淸人は居留地内某館に雇はれ居る靜岡縣人植村むめ、和歌山縣小川やす兩人を勸誘し、米郵船シチーオブペキン號に乘りこませ、去る四日香港に向け出帆せしこと、早くも其筋の知るところとなり、同地に上陸せざる内引戾さんと目下準備中なる由。

●魚醬油　靜岡縣下芳原の高橋元好氏は魚類にて醬油を製するとを發明したり、其代價は常の品の半なりと。

●神智教　マダム、ブラバツキーに代り、ケイスネツス(Lady Caithness)女史女高僧の位に登りぬ。

●女校長　米國ニウヨルセーなるボルデントン女大學校の校長ウイリアム、ボーエン氏逝去せしに付、其夫人代りて校長となりぬ。又た、資教師ケンドリツク氏の未亡人は、バッサル女子大學の校長となりぬ。又た、ウイスコンシン大學の卒業生にてオレゴン州ポートランドの諸學校監督者エラ、サビン孃は三千弗の月給にてウイスコンシン州ドウチル大學の校長に聘せられたり、此大學は元とウイスコンシン女子大學と云ひけるものなり。

●ビーチエル、ストウ　彼のアンクル、トムス、カビンの著者ストウ夫人は今年八十才にて、過日其第八十回誕生紀念を催ふし、人々之を祝したるに、夫人は全く此日を忘れ居たり、至つて健やかなれど餘程老ひ玉ひたり。

●レデー、ボルトン　有名なる旅行者且著作者なるカピテン、ボルトンの未亡人レデー、ボルトンは、其良人永逝前「香氣かぐわしき花園」と名付たる彼の不德至極なるアラビアの物語を其原語より譯述せる一書を遺されたり。是を兼て知己の出版人より三万弗にて讓受んと要求せしかど許ぜざりしのみならず、遂に火中に投じて燒きたり。實に近來貴重すべきの所爲ぞかし。

●婦人新聞紙　米國カンサス州に在る二十二の新聞紙は、專ぱら婦人の編輯に成る。

●婦人の飮酒　英國にては、近來婦女の飮酒甚數增加するの徵あり其事實たるや之が爲逮捕さるゝ婦女の數多なるを以ても明かなり、千八百七十九年ロンドンにて之が爲五千六百七十三人の婦女逮捕されぬ、然して其數年々に增加し千八百八十七年には九千七百六十四人の多數に達せり、英國のあらゆる大都府中大方は斯かる話を聞く。近年リバプールの監獄に在る囚人中、婦女男子より多を占め然して其罪多くは飮酒に原く。上院の報告に又此事を記す、云く、婦人不節酒進步の聲愈々猖獗然して之が爲新たなる危難を醸さんとするの様其甚數が如く見ゆと。

●皇帝よりの恩賜、公立社會改良會(ナショナル、ピジランス、會)の書記クート氏は獨逸國青年女子の救濟上其盡力の大なるを是認せられ此度特に獨逸皇帝陛下より金剛石其他種々の寶石もて飾られたるM形の美なる留針を賜わりたり、此謝物に添えたる獨公使の文を譯載せんに、拜啓余は今親愛せる閣下に對し余が尊敬する皇帝陛下より閣下が此獨逸國民の利益の爲刻苦盡力し給ふ貴重なる勞務に思召れ御滿悅不斜今此留針一個を閣下に呈すべき樣命られたる勅命を閣下に傳へ且つ送附申上るを榮譽至極と存候也

フオン、ハツツヘルト

公立社會改良會書記クート殿

●慈善梅毒病院　又た前の會に關する婦人病院は、一千八百九十一年四月十四日ヨセフイン、バットレル夫人の發起にて、殊に黴病治療の爲に設立せられ且患者は

入費を要せざるの組織なり、然して同會は之が入費を擔任す、其金額凡壹ケ年六百磅（三千圓程）の増額の見込なり。

●ブラッセル廢娼同盟年會。バットレル夫人は來月三日開くべきブラッセル廢娼同盟會に出席せんとする婦人等は、開會前の日曜日に於て愼密熱信なる會合及談話會を開き之に臨み得る樣出府致すべき樣熱心望まれたり。

●印度の寡婦、近年印度に於ける寡婦の再婚は早や珍しからぬ事實となり、印度の新聞紙は日々掲載するに至れり、今ラホールのトリビューンに記する一例を掲んに、玆に一夫妻あり其妻本年僅に廿一歳然して再婚なり、此女五歳の時既に一夫に嫁したれども十一歳の時逝きぬ、然して十年の間寡婦たりぬ。之を五十或は七十年前の事とせんか、恐くは夫と供に其が燒尸の堆積中に生存ながら燒殺れしならん。十年以前とせんか、必らず永久に寡婦とし遺されけん。然るに今日此くあるは實に印度人近世の大變化とこそ云ふべけれと。

●アラスカの婦人病院　アラスカ州シッカに於てはドクトル、クラレンス、ツウィンク氏の發起にて婦人病院を設立されたり是此國嚆矢の出來事なり。

●馬上の少女、　ハーパース、バザー新誌中馬上の少女と名付る文あり、そは眞の初學より少女に乘馬術を實習せしむるに供ふ。

●ラマバイ女史、　パンヂタ、ラマバイはブーナ新聞紙等が女史の運動を非難し猶其事業を妨害せんとするに對し、廣く現今の基督教信者の熱誠及同情を望まる。其中主なる妨害者は既に謝罪を女史に爲つれど、大に其運動の妨碍となれり。

●婦人投票權、　北米合衆國にては四十四州の中二十三州は教育上に關する投票權を女子に與へたり。

●割烹學校　ペッキンハムバレースロードに於ける公立割烹學校は報じて曰く千八百九十年中五千六百〇一人の入學生ありて七十六人は卒業せり。開校以來入學生徒總數四万四百七人に達せり、然して卒業後諸所に働き大に結果あらんとす。評議員は同校收入の實を得んが爲に一の家屋を新築なし割烹店を開くとを決議せり。然るに爾今却て損失の傾向あるを以て昨年五月に之を廢せり。同十二月十九日チャレスクラーク夫人（同校監督者）は龍動市會に同校の方針及維持法を證明せり、然して同會は同校の隆盛ならんを欲し資金増加の事必らず成るべしと信じ、之を許諾し、彼等が愈々之に盡力せんとするの望を滿足せしめたり。

品名	十九日
白米（一円ニ付）一等米	一〇五（斗升合）
二等米	一〇八
三等米	一一二
四等米	一一八
五等米	一二五
正米（一円ニ付）美濃米	一四四（斗升合）
尾張米	一四三
越中米	一五五
越後米	一五〇
一志米	一四六
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	三六五（斗升合）
上州小麥	二〇〇
竹林麥	二三〇
柳澤大豆	二四〇
青柳大豆	二一三
吟小豆	一七〇
黒胡麻	一五〇
白胡麻	一三〇
鹽（一円ニ付）赤穂	二〇
大潮	二四五
本齋	四一五
新齋	四五〇
醤油（一円ニ付）最上	七五 八〇
極上	八五 一、一〇
上物	一、一〇 一、五〇
中物	一、六五 一、九〇
並物	二、〇〇 二、〇〇
味噌（一円ニ付）地製上白	七、〇〇〇（貫）
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	十九日
木綿織物（一反ニ付）伊勢改良縞	五八 七〇（錢）
同糸入縞	九〇 一、〇八
笠井糸入縞	八五 一、〇〇
佐織茶縞	四〇 五七
同紺織	四五 六六
生機茶縞	三二 四八
美濃双子	一[illegible] 九〇
同羽二重縞	一、二〇 一、八〇
物産縞	四[illegible] 七[illegible]
糸入愛國縞	七〇 一、一〇
養老絞	三七 六五
京極鹿子	六〇 七〇
絹糸（一円ニ付）本練花色	二七〇（匁）
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
延糸色物	三三〇
芥子糸	二九〇
同湖色	二四〇
極天色物	二五〇
色物太練	二六〇
紡績糸	四五〇
毛糸（百斤ニ付）染分	一〇三、〇〇（円）
中細	一二〇、〇〇
極細	一二三、〇〇
スコッチ四本撚	八〇、〇〇
同三本撚	八五、〇〇
白木綿（一反ニ付）玉鶴	三四五（錢）
綾鶴	三七五
日ノ出鶴	四〇五
若柳	三一〇
稲岡	三四五
逢莱	三九〇

品名	十九日
乾海苔（百枚ニ付）洲崎上	七〇 一、〇五（円）
大森	一六 一、〇五
深川砂村	三五 一、〇五
大師潮田	一五 八〇
上總	二五 七〇
仙臺	二〇 六五
鰹節（十貫目ニ付）薩摩新大	一八、〇〇（円）
房總新上	一六、五〇
銚子新上	一五、五〇
水戸新上	一五、五〇
南部仙臺	一二、五〇
土佐新大	一三、〇〇
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	二、五五（円）
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇五
狹山稀大頭	一、九〇
同稀頭	一、六〇
同大頭	一、三五
同中頭	一、二五
水油 地水	六、四〇（円）
胡麻油	九、〇〇
荏油	九、二〇
桐油	六、四〇
綿油	品切
坂水	七、五二
石油 チヤスター	一、五九（円）
デボース	一、五八
ホーキ	一、六一
ロシヤ	一、五八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○女學生募集

九月十日始業各級入學ヲ許ス本館ニ於テハ和漢學英佛獨語數學理化學裁縫編物茶湯和洋音樂等ヲ敎授シ日本人七名外國人三名ニテ之ヲ擔任ス寄宿志願ノ方ハ前以テ通知アレ規則書入用ノ方ハ郵劵二錢ヲ送ラレヨ

廿四年八月十七日

麹町區上六番町

私立 開成女學館

私立 明治女學校 生徒募集廣告

小學尋常科卒業の人は無試驗にて校下級即ち豫科第一年級に入ることを得。

豫科を三年とし高等小學科の敎授を悉くす。吉田のぶ子其科長たり、巖本善治氏之を監理す。

豫科了りて後ち本科を三年とす、賢妻良母を養成することを主旨とし、家政女藝及び女學悉とく敎授す。

●右九月十日後各級に入學を許す、規則書需用の人は郵劵封入申越あれ。

東京下六番町 明治女學校

專門

梅毒 痔疾 子宮 淋疾

右四科は院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管該患者に施療したる處にして速に全治受合なり若し全治せざれば藥價返却す●但し診察無料

京橋銀座二丁目東仲通

畑中堂 山本醫院

私立 普連土女學校

本校は芝三田聖坂高燥の地に在つて眺望空氣在學生の衞生に適す今回良敎師を聘し科目に改良を加へたり且時々學者敎師を聘して演說講義をなし生徒智德の開發を補益せんとす入學を望む者は至急申込むべし

郵劵貳錢を送れば規則書を呈す

芝區三田功運町三十番地

立教女學校生徒募集

本校九月十一日始業入校志願の方は來校あれ新規則入用の方は貳錢切手封入申込あれ

京橋區築地廿六番

基督教青年寄宿舍

本舍は基督敎の青年に限りて寄宿せしめ宗敎的の親切を以て寄宿者を厚待可致候間東京の惡風に感染するの憂萬々無かるへし基督敎信者たる青年諸君速に來宿あらんことを乞ふ

●舍內に新聞縱覽所及體操運動所あり

東京神田區小川町二丁目八番地

森佐山

第三版

百人一首講義

上製美本 五十錢 郵稅六錢

並製淡裝 三十五錢 同 四錢

清秋の讀書に宜し 遺物に宜し

歌留多遊びに宜し 詠歌に宜し

女學雜誌社

雜誌	一冊	六錢	郵稅五厘	(但府內無郵稅)
	十二冊	五拾八錢	郵稅五錢	(同 前)
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麹町區下六番町六番地

發行所 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

●色を白くするさぼんの元祖たる三能さぼんは

藥劑士大鐘寸岱氏と製造人西條重兵衛氏と多年の實驗により主として男女全體の色を白くしにきびそばかす皮膚病及び諸傳染病の消毒に大効ある藥劑を配伍し調製したる物なり昨明治二十三年十月を以て弊店の發賣する所となり爾來日尚淺きも其効能の著しき事實に三能の名に背かざると愛顧諸彦の高庇により世に高評を蒙り弊店の幸福之れに過ぎず然るに三能さぼんの日に月に益々盛大なるを羨ひ數多の破廉恥商等種々まぎらはしき色を白くする○○さぼん或は何さぼん又は何ど一雨毎に現出し何れも外見よく何分かの香氣を含み一す素人好きのするさぼんなり然るに實際功顯わる三能さぼんは返て容形あしく御便用中何どなくざらつく氣みあれども是れ即ち藥力の致す處にして功能を主としたる拙なり三能さぼんは決して香氣や形容を主としたる○○さぼんの類にあらず又尋常化粧石鹼と異なるものなり今回從前の品標即ち玆に掲げたる洋裝婦人の圖を以て公然商標とし農商務省登錄御許可相成候に付御愛求の諸君篤と右商標御注意の上御の形容さぼんに惑はされず愈御愛顧あらん事を江湖諸君に希ふ●定價一個十錢郵稅二錢郵券代用不苦候但二錢切手に限る右品各府縣下賣藥店又は和洋小間物店に取次販賣所御座候間御最寄にて御購求奉希候也

銀座一丁目
發賣本舖 つやぶきん本店 **佐々木玄兵衛**

正札付安し

新形流行

○はおり紐　品々
○帶留類　品々
○時計紐　品々
○メリヤス　品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製
仕○御誂物等ニ美流ニ嗣追仕候

組糸老舖
日本橋區よし町
佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY